

人吉市新市庁舎建設基本計画(案)について意見募集(パブリックコメント)の実施結果について

新市庁舎建設基本計画(案)に対する意見募集(パブリックコメント)を実施した結果、次のとおりご意見をいただきました。貴重なご意見をありがとうございました。お寄せいただきましたご意見の概要と市の考え方を掲載します。

■意見募集(パブリックコメント)の実施内容

- (1)公表資料 : 人吉市新市庁舎建設基本計画(案)
- (2)公表・提出場所 : ・市役所仮本庁舎1階ロビー ・仮本庁舎2階総務部市庁舎建設準備室窓口 ・市役所第1(西間)別館
・スポーツパレス1階 ・市保健センター ・各校区コミュニティセンター ・市ホームページ
- (3)意見の募集期間 : 平成29年2月6日(月)から平成29年2月21日(火)まで
- (4)意見の提出方法 : 備え付けの投函箱、郵送、電子メール、ファックスでの提出
- (5)意見者数 : 28人
- | | |
|-------------------------------------|-----|
| (主な内容)・新市庁舎(保健センター)に口腔保健室の設置、設備等の要望 | 2人 |
| ・市民交流機能(市民コーナー)の活用について | 1人 |
| ・新市庁舎にアマチュア無線機器一式設置の要望 | 1人 |
| ・防災機能等について | 3人 |
| ・庁舎内配置、空間について | 1人 |
| ・木造建築、木質化、地場産業の振興、経済の循環、環境等について | 19人 |
| ・街並み景観、デザインについて | 1人 |

新市庁舎建設基本計画(案)に対する意見募集(パブリックコメント)にお寄せいただいたご意見と市の考え方について

	意見の要旨	市の考え方
1	<p>新市庁舎に「歯科室」とその中に、「歯科用チェアー」を要望いたします。以下、必要な理由です。</p> <p>① 市庁舎に防災センターの機能を持たせる観点から、避難者にとって災害後の誤嚥性肺炎などの予防に 必要な口腔ケアなどを行う拠点としては、市庁舎と同じかまたは近い場所の施設に歯科室があることが重要かと思われること。</p> <p>② 災害時のみならず、現在保健センターで行っている乳幼児歯科健診についてもプライバシー保護や正確な検診のため、孤立した専用の部屋で実施できること。</p> <p>③ また、健診の際等、歯科室に照明などの設備の整った「歯科専用のチェアー」があると、より正確な検診や指導等が可能になること。</p> <p>④ 歯科検診事業等について、最優先は歯科医師会の会員診療所で実施することが最も大切だが、市役所の職員やほかの公務員(教職員など)、及び地域住民への歯科健診なども、必要があれば歯科室の利用も考えられること。</p> <p>※歯科室の特徴として、チェアーなどの設備については、配管などの特殊な設備が必要なため、市庁舎の設計段階で盛り込むことが必要と考えられる。</p>	<p>市民の健康増進、疾病予防の観点から歯科健診は重要だと考えます。「歯科室」及び「歯科用チェアー」の設置要望につきましては、今後、庁内において協議し、保健センター機能を配置する第一別館の大規模改修事業の中で検討していきます。</p> <p>基本計画 P34 第7章 新市庁舎の建築計画</p>
2	<p>1 人吉市新市庁舎建設基本計画(案)P29. 5の市民交流機能(1)整備方針、(2)具体的方針の特に①市民コーナーの活用、②展示スペースについて、広いスペースが必要(現在のカルチャーパレスの受付の右のスペースを参考にしてほしい。)</p> <p>2 人吉の文化を育成するために、絵画や工芸、写真、書道などの展示ができるスペースを確保していただきたい。多様なイベントを開催できるスペースなので、広々とした空間が必要です。</p> <p>3 人と人との結びつき、市民が気軽に訪れ、交流ができるスペースが必要と思います。</p> <p>4 利用できるように、使用しやすい運営、展示期間やパネルの設置(移動できるもの)使用料無料も</p>	<p>市民交流のためのスペースとして、エントランス横に市民コーナーを計画します。日当たりのよい開放的な空間として、ひとよしの文化や歴史を発信できるスペースとします。市民が気軽に訪れ、人と人との新たな交流が生まれるような空間を目指します。市民コーナーの活用については、各種展示など多様なイベントに利用できる仕組みを基本設計・実施設計で具体的に検討していきますが、運用方法、使用料等については庁内で協議し検討していきます。</p> <p>基本計画 P29 第6章 新市庁舎の機能 5 市民交流機能</p>
3	<p>新庁舎の機能</p> <p>1 防災機能に重点をおいた庁舎であり、費用負担が最も大きい免震構造を採用するならば、庁舎2階以上の吹抜けは会議室を多く作るべきと思う。</p> <p>2 震災時、職員の休憩の場、会議室等コミュニケーションの大切を思うと絶対必要になる。</p>	<p>限られた面積の中で、会議室等の有効活用を図り、災害時には弾力的な利用を検討します。また、庁舎の一部を被災者やボランティアの一時受け入れスペース、職員待機スペースとして転換できるよう検討します。吹抜けについては、できる限り自然光を導き入れ、下階と上階の温度差を利用した自然換気システムを採用することでランニングコストの低減を図ることができ、また、各階に分散した機能を一体的に繋げる空間となるよう吹抜けを検討していますが、空気循環の効率性やコストの面などあらゆる角度から検討を行い、基本設計で決定していきます。</p> <p>基本計画 P23～ 第6章 新市庁舎の機能 2 防災拠点機能 3 行政執務機能</p>

	意見の要旨	市の考え方
4	<p>1 アマチュア無線機器の一式(アンテナ・無線機等一切を含む)の庁舎内設置を要望します。</p> <p>(1) 設置の必要性 災害時における情報を集約する市の本部として情報・避難誘導の際に本部に機器の設置が必要であり、クラブ員の通信機器を持ち込んで、設置するには時間がかかるので、無線設備の常設が必要。災害時における情報伝達手段として多大の公共・有益性がある。可能な限りの情報収集の手段であり、想定外のなきようにするための必要不可欠な設備である。</p> <p>(2) 人吉市との支援活動協定締結 人吉市とは平成24年2月8日に情報収集・伝達活動に関する協定を締結しています。支援活動をより有効にするためには当然無線設備が必要。</p>	<p>アマチュア無線については、本市地域防災計画書において、大規模災害時等における情報収集等の支援活動の応援要請を行うことになっています。大規模災害が発生し、携帯電話等の使用が困難になった場合に速やかに対応・対策がとれるよう、基本設計・実施設計をまとめ上げる中で、庁内で協議し無線設備等の体制充実のための検討をしていきます。</p> <p>基本計画 P23～ 第6章 新市庁舎の機能 2 防災拠点機能</p>
5	<p>昨年12月25日の熊本日日新聞に建築家が「木の時代が来る」と話された記事を読み、新しい人吉市役所もこの時代の先駆けになる本格的な木造建築の庁舎になってほしいと思っていたところ今年1月1日の人吉新聞に「鉄筋コンクリート4階建て」と報じられて、がっかりしました。専門家たちと良く相談してほしいと思います。新しい市庁舎が本格的な木造建築の将来文化財に指定されるような斬新な建物になり、全国各地から見学に訪れるようになったら川南地域は観光面でも発展するのではないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレは女性用7、男性用3の割合で造る。身障者用も別に造る。 ・市職員が快適な職場環境で市民に対応できるように職員用の休憩室を造る。(男女別に) ・女性職員用の更衣室を造る。 ・食堂は一般住民も利用できるようにする。 ・観光客向けの土産物やグッズ類を販売する。 ・人吉球磨地域の宣伝物を用意する。(有料、無料の) 	<p>人吉球磨の歴史や地域で育まれた文化を取り入れ、人吉らしいデザインで人々のよりどころとなる庁舎を検討します。新庁舎においては市民の安全を継続して確保し、大地震発生時の建築設備や機能被害を最小限に抑え、災害復興の拠点として直ちに対応できる構造物とすることが必要であることから、免震構造とする計画としています。</p> <p>また繰返し地震なども想定し、持続的に構造物や設備機能が維持できるような建物とすることとしています。</p> <p>ただし、人吉の豊富な木材の利活用や木のぬくもりを感じられる親しみのある庁舎とするために、内装材や家具などに地元木材を利用する計画としています。</p> <p>基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方</p> <p>トイレや職員用休憩室、更衣室等の各機能について今後基本設計において検討していきますが、トイレはユニバーサルデザインを取り入れた計画とし、利用者数に応じた便房数を確保します。</p> <p>福利厚生機能については、職員アンケートなども行い、男女別の休憩室・更衣室を計画します。</p> <p>また、市民の方が気軽に利用できる市民コーナー・売店についても基本設計において検討していきます。</p> <p>基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方 基本計画 P29 第6章 新市庁舎の機能 5 市民交流機能</p>

	意見の要旨	市の考え方
6-1	<p>1 新聞紙上で新市庁舎はすでに「鉄筋コンクリート4階建て」という見出し(副題)がありました。現在の基本計画では、鉄筋コンクリート造、鉄骨造などの新市庁舎の構造体の決定は、基本設計で検討していくので、まだ決定はしていない」とのことでしたので、それを聞いて安心した次第でした。しかし、今回公表の基本計画案の第7章・新市庁舎の建築計画、各階平面計画を深読みしますと、構造体として初めに鉄筋コンクリート造、鉄骨造ありきの感が有ることは否めません。新市庁舎建設には市民や業界団体から数多くの木造での請願や要望があることからしても、ぜひ基本設計、そして実施設計には耐震・耐火のしっかりした“本格木造での図面作成”をお願いしたいのです。</p> <p>＝本格木造による新市庁舎建設の利点＝</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 木造でも災害に強い耐震、耐火の大型建造物が可能である ② 地域の木材資源がしっかりと活き、独自のデザイン設計が可能 ③ まだ今ならば、地元の伝統木造技術と大工さんが活かせる ④ 木には百年、二百年の寿命があり、低廉で改築、補修も容易である ⑤ 木造そのものがヒト(市民や職員)に優しく、仕事にも潤いが増す ⑥ 木造公共建築が広く地元の産業振興につながる ⑦ 木造建築は人吉の町の歴史と景観にマッチする ⑧ 木造新市庁舎そのものが人吉や当地域の象徴(ランドマーク)、さらには他所にない地場産業の広告塔となる ⑨ 時代を経れば、木造新市庁舎そのものが後世へ誇れる資産・財産となる ⑩ 基本設計、実施設計から完成まで、この新市庁舎づくりが、市民参加と情報公開、地元住民のコンセンサスづくりにつながる <p>2 防災センターに特化した市庁舎づくりの問題点 「防災センター機能を備えた堅牢な総合庁舎」で、仮に、激甚災害(水害、火災を含めて)が本当に起こったとすれば、次のような問題点が起こるのではないかと。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 災害の拠点を置いたとしても、その拠点の防災センター地域が大丈夫とは限らない。そこで大事なのは拠点の数、目的、機能が重要 ② たとえ初回の災害で大丈夫だとしても、新市庁舎が連続する大規模な災害に耐えうるとは限らない。次に来る自然の力は予測が出来ず、想定外の災害には、その拠点が大丈夫とは限らない。 ③ 大災害の種類、その発生時季や時間にもよるが、現実にはパニックが起り、実際は何処に、どう逃げたらよいかは不確定、不確実である。 	<p>人吉球磨地域の歴史や育まれた文化を継承し、後世に残していくことは重要な責務だと考えます。近年の施工技術の進歩や耐震性、耐久性を高める施工上の工夫を施すことにより、木造建築においても鉄筋コンクリート造又は鉄骨造と同等の耐震性等を有する庁舎を建設することは可能かと思われませんが、構造体については地域の防災拠点として求められる耐震性、耐久性、耐火性の確保と経済性、工期等を総合的に判断し基本設計において検討します。</p> <p>基本計画 P23～ 第6章 新市庁舎の機能 2 防災拠点機能 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方</p> <p>新市庁舎は免震構造の導入を目指し、国土交通省が定めた「官庁施設の総合耐震計画基準」における新市庁舎の耐震安全性の目標を、「構造体:1類、建築非構造部材:A類、建築設備:甲類」の最高基準としています。災害時には、この新市庁舎を災害対策本部として活用し、防災拠点としての機能を十分に発揮できるように、電力供給機能、通信・情報機能、給水・排水機能等を確保できるようにします。人吉地域防災計画及び人吉市業務継続計画に基づき、災害発生時に市内の指定避難所等の公共施設等と適切な対応・対策がとれるような防災拠点を目指します。</p> <p>基本計画 P23～ 第6章 新市庁舎の機能 2 防災拠点機能</p>

	意見の要旨	市の考え方
6-2	<p>④ 新市庁舎(防災センター)の集約数は恐らく数百～数千人規模に限定され人吉地区全域の収容は困難であり、川南の住民中心の収容に制限される。</p> <p>⑤ 新市庁舎を含め、エレベーターが必要な多重高層の建物は、大災害時にはかえって危険である。</p> <p>⑥ いかなる場所、いかなる状況を想定しても、自然災害には想定内のみの対応であり、市庁舎単一の防災センターでは役割に限界がある。また疾病などの二次災害を含め、収容者は早急に機能別施設に移動させる必要がある。</p> <p>⑦ 一つの建造物(ハード)のみに、必要以上の経費を計上するには疑問がある。大事なのは、災害時の機能(ソフト)とその対応(目的)である。無駄のない有効な災害拠点を各所に備え、公共及び個人の既存建造物を併せて拠点とし、その耐震補強にも予め予算を廻すべきである。</p> <p>⑧ 自然の驚異(災害)に対し、より大きな堤防、大きなダム等は自然の摂理にそぐわない。木造は自然に寄り添い、自然に逆らわず、自然との共存という視点が、住環境調和の面からも大事である。</p> <p>⑨ 防災を含め、地域づくり、人づくりは市庁舎などのハード(外側)ではなく、そのシステム(中身)である。</p> <p>3 行政への「お任せ防災」への是非</p> <p>行政へのお任せ(防災)では、熊本地震の状況を見ても、その実質的効果はあまり期待出来ない。このことは街づくりでも同様だと考えます。</p> <p>4 まとめ:「より大切な市役所(市庁舎)の機能とは」</p> <p>この人吉球磨の地、人吉の町の景観に相応しい、後世に誇れる、地域の暮らし(文化)や仕事(産業)、そして景観を守る“本格木造市庁舎による建設”を切望します。</p>	
7-1	<p>新市庁舎保健センター内に口腔保健室の設置及び設備等に関する要望</p> <p>① 保健センターでは、乳幼児の定期健診を行っています。受診者のプライバシー保護、又は、騒音などによる健診への影響を考え、独立した口腔保健室の設置を要望します。</p> <p>② 口腔保健室には、より正確な健診とフッ素塗布を行う為に照明設備、歯科専用チェア、消毒器具等の設備の充実を要望します。</p>	No.1参照

	意見の要旨	市の考え方
7-2	<p>③ 人吉盆地南縁断層(地震規模M7.1程度の発生確率30年以内に1%以下。日本ではやや高いグループ)の存在を念頭におけば、市庁舎に防災センターの機能を持たせる観点から、避難者にとって災害後の誤嚥性肺炎などの予防に必要な口腔ケア等を行う拠点としては、①、②の要望のように独立した部屋と設備が必要と考えます。</p> <p>④ このような独立した設備が整った口腔保健室があると、市職員や各事業所、及び地域住民への歯科健診や口腔機能介護予防事業など、よりよい健診ができ、役立つと思われます。</p> <p>歯科用機材の特徴として、チェアーなどの設備については、配管などの特殊な設備が必要なので、市庁舎の設計段階で盛り込む事が必要なため、その段階で人吉市歯科医師会との話し合い、意見交換等を必ず行ってもらうよう要望します。</p>	<p>基本計画 P34 第7章 新市庁舎の建築計画</p>
8	<p>基本計画(案)については、よく検討されており概ね良しとしましょう。人口減少傾向から考えて、後世代に高額な負債を残さない事も大切です。大災害に強い建物を低コストで建設するには、工法や資材にも限度があります。木材の産地であること、UD(ユニバーサルデザイン)も考慮した城下町という歴史を踏まえたデザインに期待しています。水路設計については、単なる放水路でない景観を考えた設計案を望みます。一口城主みたいな広く寄付受け入れのアイデアがあったらいいですね。</p>	<p>必要な庁舎機能を維持したうえでコンパクトな仕様とし、過度な仕様にならないよう留意しコスト削減に取り組み、人吉球磨の歴史や文化、景観に配慮したデザインを検討していきます。水路につきましては、安全対策も含め検討していきます。一口城主等の寄付の受け入れについても検討していきます。</p> <p>基本計画 P38 第9章 新市庁舎建設の実現方策 3 事業費の低減 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方 3 ユニバーサルデザイン 基本計画 P17 第5章 施設の配置計画 2 水路について</p>
9	<p>私は50年近く木と共に生きてきました。経験上木の良さは知っているつもりです。しかし、近年の木造建築に於いて木材利用は主に構造材のみで木の良さを体感できる造りではありません。時代の流れとは言え残念なことです。これでは木の良さを知らない人が増えるばかりです。建築方法の変化と共に熟練の職人さん等が少なくなっています。伝統的技術が消えていくのは淋しい限りです。市庁舎建設に当たっては、木材利用を考え頂きせめて市民が利用する機会の多いスペースには木の温もり、木の香りのする空間をご提供いただきますようお願い申し上げます。</p>	<p>人吉球磨の地場産材である木材を、積極的に活用したデザインを検討していきます。外装材や内装材、造作家具等に採用を検討し温かみのある建物になるよう基本設計・実施設計において検討します。</p> <p>基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方</p>
10	<p>人吉、えびの地域の地震は連続しておこる可能性があり、安全性を考えるなら免震構造が地震に強い建物で安心して会議又は避難ができる。そのためには各階の吹抜けを造らず多目的に利用出来る場所を確保すべきと考える。又、地震時に市職員の休憩室として利用出来る。</p>	<p>No.3参照</p> <p>基本計画 P23～ 第6章 新市庁舎の機能 2 防災拠点機能 3 行政執務機能</p>

	意見の要旨	市の考え方
11	<p>新庁舎に関する説明会において、本庁舎は緊急避難所を兼ねた防災センター機能を備えた堅牢な総合庁舎として建設するとあったが、設計図には庁舎内に避難所としてのスペースが明記されていないのはどうしてでしょうか？避難所としてのスペースができる場合には、コンクリートの無機質の一部に例えば床には木材の床張りとし腰廻りは杉、桧の板を張る等温かみのある場所にしてもらいたいものです。新庁舎は耐震、耐火の面で堅牢な鉄筋コンクリートが良い。地元庁舎の一軒を木材建築にしても人吉球磨の林業製材所の復活は望めない。昭和20年～昭和30年代に地元の製材業、林業が栄えたのは敗戦後の復興で木材住宅が全国的に建築されたことによって木材需要の恩恵を受けたからです。小生の父親は当時九州では1位～2位を競うほどの大製材業営んでいました。建築様式が変わり木材の需要供給のバランスが壊れた現状では林業農業問題は国策として取り扱うことが重要だと思います。</p>	<p>通常利用に加え、庁舎の一部を被災者やボランティアの一時受け入れ、応急処置対応スペースとして転換できるよう、また、温かみのある内装等についても基本設計・実施設計において検討します。新庁舎の構造体については、No.6参照。また、近隣施設とも連携し、庁舎敷地が一体的に災害対応可能な計画とします。</p> <p>基本計画 P23～ 第6章 新市庁舎の機能 2 防災拠点機能 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方</p>
12	吹抜けは必要ない。玄関の売店はいかがか。	<p>吹抜けについては、No.3参照 売店については、それぞれの用途に応じてゾーンごとの配置を検討し、具体的には基本設計において検討します。</p> <p>基本計画 P31 第7章 新市庁舎の建築計画</p>
13	木造を希望する。国宝に指定された青井阿蘇神社とともに、人吉の顔となる庁舎を地域の豊富な木材資源を活用し人吉の伝統を保ち、市民に優しく愛される庁舎を造って欲しい。	<p>No.6 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方</p>
14	森林資源豊富な人吉で、若者がもっと林業に従事したくなるような木造建築の新市庁舎にして欲しい。	<p>No.6 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方</p>
15	市民が集える温もりのある日本一の庁舎であるとうれしい。	<p>No.6 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方</p>
16	<p>木材生産地として人吉球磨地方は、質の良い材を生産していることを地元の人に知られていない。木材の生産地をアピールするために人吉が先頭に立つ必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良質な素材があるのに活かさない手はない。 ・無機質な所にもわざわざ木目を付ける。これは世界中で家、家具、建物や車の内装など人は好むものである。 ・地元加工施設が少ないので目立たないが、優良な木材生産地である。 ・林業で働く人の数は他地区から比べると多く居て有利 ・震災を機に鉄骨系のハウスメーカーが木造が弱いかのような営業攻勢をかけている。 ・少しでも目立つPRをしておかないと忘れ去られてしまう。 	<p>No.6 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方</p>

	意見の要旨	市の考え方
17	少しでも木を大切にすることを世界中に広めていかないと森の木が有効に使われず無くなってしまいます。未来の子供たちに木の良さを残すために、新市庁舎は木造建築であってほしい。	No.6 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方
18	<p>国策で木材が見直されている中、新庁舎を木造にすることは人吉が『森林資源が豊富である』ことをアピールするのに絶好の機会と考えます。</p> <p>林業の視点から見れば、檜の4大生息地帯である熊本、その中でも『球磨檜』は今後伐期を迎える山が50年前並みに出てきます。また、杉も今以上に出荷できる資源を持っています。</p> <p>長崎県では市庁舎やホテルに県産材(CLTなどのラミナー材)を活用して建てることを実行しています。長崎の土地柄上、製材所が少ないため、地元製材業が足りない部分を補って製材した例があります。</p> <p>人吉の産業構造から見ても地元材を活用して庁舎を建てることは、人吉市への(地元にお金が残る)経済的なメリットが大きいと考えます。地元との素材業者、製材業者、建設業者にお金が回れば、町のサービス業へお金が流れていきます。あと、現在の熊本の状況下で建材物資の高額化は避けられないため、基礎以上をRCにするのは地域経済にお金が回らなところか、今まで以上の材料費が人吉市から出ていくこととなります。</p> <p>また、高齢化が進む日本において、市庁舎が安らぎや安心感を持つことは人吉の産業構造のランドマークとして市庁舎の木質化を、更には温泉宿や日本遺産へその流れを生かして人吉の産業の活性化が行われ地方創生の成功例としては注目されることを期待します。</p>	No.6 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方
19	職員の疲労感を木造建物が癒してくれる。森林豊富な地方の町だからこそ木材をふんだんに使った、訪れる方々に誇れるような建築物にしていきたい。	No.6 No.9参照
20	人吉球磨のランドマークに大規模木造庁舎をあてることにして、林業および周辺産業育成に期すべきである。木材使用によるヒーリング効果、環境効果の他にも経済面においても大きな資本の循環を起こす。人々の目に触れる主要な部分は基本的には木造にすべきである。	No.6 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方
21	人吉球磨の主幹産業は農林業である。地元産の木材利用を設計に組み込まずして、中心都市人吉市の市庁舎建物はあり得ない。各地の公共建築物が木造へ数多く移行している現状を見れば、コンクリートから木造への流れのその理由と現時点の評価を検証できる。先進地を研修し実行に移してほしい。	No.6 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方
22	地球環境と人間に優しい木造の庁舎を建築してほしい。設計にもよるが、RC造、S造と比較しても軽く基礎工事のコストダウンにつながります。木造は工期が短くなることで、事業費削減にもなる。	No.6 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方 基本計画 P38 第9章 新市庁舎建設の実現化方策 3 事業費の低減

	意見の要旨	市の考え方
23	人吉の城下町と観光にあった、産業振興にも繋がる木造建築が良い。	No.6 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方
24	木造でも災害に強い、耐火建造物ができるはず。地元の木材を使った建物にしてほしい。	No.6 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方
25	【デザイン】 ・外観のデザインは、青井神社の楼門又は本殿を参考にできないか。 【主構造】 ・木製の集成材も良いと思われるが、強度・耐火等を考えると、コスト高になると思われるので、鋼又はコンクリートを組み合わせたものとし、極力経済性を考慮する。 【一般構造部】 ・地産の木材(極力合板は除く)を使用し、耐久性を考慮し、市民がぬくもりを感じるものとする。 【機能性】 ・高齢者が利用しやすい構造とし、人口減少に向けて過大なものとならないようにする。	No.6 No.8 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方
26	地場産業の育成、事業費の抑制、鉄やコンクリートに比べ断熱性が高く、省エネになり温もりがある、地域経済活性化等の理由で構造物は木造にしてほしい。	No.6 No.9参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方
27	庁舎建設の基本構想は素晴らしい。 ・西向きの建物は空調の面からも快適な事務所とは言えない。 ・建物の材料には、木材を極力使ってほしい。 ・駐車スペースに水路上部の活用はと思います。	No.6 No.9参照 さまざまな配置検討を行い、利用者の安全性や利便性、駐車場確保の点などから敷地形状に相応しい配置計画・建物形状を計画しています。西日対策としては庇やルーバー(細長い板を枠組みに隙間をあけて組んだもの)の設置、遮熱ガラスの設置など対応を検討していきます。 駐車場については、敷地内の有効活用ができるよう検討していきます。 基本計画 P18・19 第5章 施設の配置計画 4 新市庁舎敷地のゾーニング 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方 基本計画 P10～ 第3章 新市庁舎建設の基本指標 4 駐車場規模の算定
28	高層階はライフラインが止まったとき不便であり、景観上から木造2階建てではいけないのか。駐車場は立体駐車場でよい。玄関が西向きであるが、光熱費の面から、別館と向かい合わせで玄関北向きがよい。	No.6参照 No.27参照 基本計画 P35 第8章 新市庁舎のデザインの考え方 基本計画 P18・19 第5章 施設の配置計画 4 新市庁舎敷地のゾーニング